

論壇

住みやすい町を信任

日本の人口が本格的に減少を始めている。当然、どの地域でも人口減少の影響が出始めている。どこに行っても、その地域の自治体の方から、自分たちの地域は人口減少を食い止めるため、こんな政策を行っているという話を聞くことになる。

先日、私が出演したテレビでも、そうしたテーマを取り上げた。千葉県流山市では子育てしやすい町をアピールするため、駅から地域の保育園に子供たちを無料送迎するサービスを行っている。共稼ぎの夫婦は、出勤途中に駅まで

伊藤 元重

東大教授(国際経済学)

子供を連れてくればよいし、帰りが子供を車でピックアップできるという。通勤新線ができたこともあり、流山市の人口は増えているようだ。

九州の佐賀市では、近隣の大都市の福岡市に若い人が転居しやすいように、学校を卒業してから3年、あるいは佐賀市に転居して

ていた。こうした補助で、佐賀市は福岡市への人口流出を防ごうとしている。

こうした取り組みを、人口争奪戦と呼んでいる人がいた。実際、

日本全体の人口が縮小している中で、多くの地域が人口流入を任せて、けようとすれば、単なる争奪戦になってしまうのだ。こうした政策

「足による投票」に現実味

きた人にも3年、佐賀から福岡までの特急通勤の費用を毎月最高で1万5千円まで補助するという。番組で取材を受けた若い女性は、

「就職に際して福岡市に引越そうかと考えたが、通勤費用が出るので、とりあえずは佐賀市の実家から通勤している」と言っ

た。これは実際に投票すると「足による投票」の議論を思いついた。これは実際に投票すると

「足による投票」の議論を思いついた。これは実際に投票すると

「足による投票」の議論を思いついた。これは実際に投票すると

会では、魅力のない町からは人口が流出してしまう。住みやすい町に移り住むということが、その町を信任する投票のよきなものだ。「足による投票」とは、移住という行動が結果的に優れた地域を信任する投票のようになっていくことだ。

行政サービスの競争

居する人が増えていくようなら、足による投票が現実味を帯びてくる。人口減少社会でそれぞれの地域が人口流出を防ぎ流入を促すためにさまざまな政策を行えば、それですます人口の移動が激しくなるかもしれない。

こうした動きは悪いものでもない。どの町にいても同じような行政サービスが得られるというよりは、それぞれの地域が知恵を絞ってよいところをアピールする方が、結果的に魅力的な行政サービスが提供されることになる。足による投票とは、要するに地域間の行政サービスの競争ということである。競争によって地域が競い合うことで、行政サービスの全体的な質の底上げとなればよいと思う。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。